令和３年度　北海道千歳高等支援学校グランドデザイン

令和3年4月1日

日本国憲法
教育基本法
学校教育法

学習指導要領
諸法令

北海道教育の基本理念

北海道総合教育大綱～北海道教育推進計画～石狩管内教育推進の重点～特別支援支援教育に関する基本方針

校　訓

挑戦 Challenge
創造 Creation
協働 Collaboration

学校の教育目標

志を持って社会を創る人間の育成

本校の使命
- 身近な地域で安心して受けられる教育（後期中等教育）の場の提供
- 生徒の自立と社会参加（就労）の実現
- 地域で育ち、地域に感謝と貢献できる社会人の育成
- 地元の産業･文化と連携した教育活動の推進
- 地域の特別支援教育のセンター的機能の発揮
- 地域に根ざした学校として、共生社会の実現を目指す特別支援教育の理解啓発に努める

本人･保護者の願い
- 身近な地域（通学）で教育（後期中等教育）を受けたい
- 障害に応じた生活自立･社会自立を目指した職業教育を受けたい

本校の特色
- 職業学科（２学科：生産技術科、環境･流通サポート科）を設置し、学年３間口で学年定員は２４名である
- 石狩東部（千歳市）に位置した通学型の高等支援学校（通学型）である
- 千歳市、苫小牧市恵庭市を中心に、札幌市･北広島市、その他周辺の市町村の在籍者がいる。
- 通学手段はバス利用が多く、遠方ではＪＲ利用者も多い
- 平成２５年に地域の要望を受けて開設され、後者は廃校となった千歳市立中学校の校舎を改修して使用している。
- 地域には製造業、小売業などの産業があり、実習先の確保等には協力的な企業等が多い。

何ができるようになるか

長期目標

目指す学校像

共に学び, 共に育つ学校　　～信頼･協力･感動～
～地域と連携した教育活動を推進する学校～
- 生徒にとって「学ぶ喜びが分かり、自分の成長が確かめられる」学校
- 保護者にとって「安心して子どもを任せ、願いが確かな成長として伝わる」学校
- 教職員にとって「生徒の成長を共有し、職務に生き甲斐と誇りを持てる」学校
- 地域社会にとって「教育活動がよく見え、信頼され頼りにされる」学校

目指す人間（生徒）像
- 自分をよりよくするため､挑戦する意欲と前向きな気持ちを持つ人
- 自己を理解し､将来の生活に向けた選択や決定を通して､志を持ち、自己実現を目指す人
- 創造的な心と健全な体を持つ人
- 他者と協働し､感謝の気持ちと謝罪の気持ちを素直に言える人、言われる人
- 自己を律しながら、地域で生活する人

目指す教職員像
- 教育者として､強い使命感･倫理観と、生徒への深い教育的愛情を常に持ち続ける教員
- 教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に､主体的に取り組む教員
- 学校づくりを担う一員として､地域等と連携･協力しながら､課題に取り組む教員

育成を目指す資質･能力

〇心身ともに健康で明るい生徒を育てる。
〇勤労意欲を養い、最後までやりぬく力を育てる。
〇集団生活への積極的な参加を通し、道徳心や社会生活への適応能力（コミュニケーション等）を育てる。
〇社会生活に必要な知識･技能の能力を育てる。

どのように支援するか・どのように学ぶか・何が必要か

中期目標

教育方針

1　生徒個々の障がい特性を(合理的配慮)を踏まえ、教育的ニーズに応じた共感的人間関係の構築を基盤に据えた教育を進める。
2　地域資源を積極的に活用するなど、キャリア教育の視点を生かした教育課程を編成し、社会生活に必要な知識･技能･態度を培う。
3　生徒が分かる授業、自己の成長を確かめられる評価により、主体的な教育活動を展開する。
4　生徒の個性や生活年齢に配慮した指導に努め、共生社会を担うための確かな学力を育てる。
5　心身の健康の保持増進を促し、安全な生活を営むための資質、能力、習慣の育成を図る。
6　保護者や関係機関等との信頼関係を前提として、個別の教育支援計画の作成･活用及び本人の意向や適性、自己決定等を尊重した進路指導を進める。

経営方針

1　教育公務員として法規等に基づいた服務の遂行を行うとともに、公教育としての役割を的確に果たし協働的、創造的に経営に参画する学校経営を推進する。
2　自己評価、学校関係者評価等を基に、学校運営の改善を図り、時代の要請に応える学校経営を推進する。
3　教育活動の情報を適切に公開し、家庭･地域･関係機関と連携するとともに特別支援教育センター的役割を果たして信頼に応える学校づくりを推進する。
4　学習環境の整備や危機管理体制の改善･充実を図り、安全で安心感のある学校経営に努める。
5　保護者や地域、関係機関等に対して、的確な情報提供や説明等を適切に行い、信頼関係に基づく開かれた学校経営に努める。
6　学校予算の計画的、効果的な執行と適正な財務処理に努める。

短期目標

令和３年度　重点目標

安全･安心な学校づくりとリスクマネジメントの強化

■生徒が主体的に取り組む実践的な「防災安全教育」「健康教育」の推進
- 実践的な防災訓練･防犯訓練の実施

■危機管理マニュアルの整備
- 感染症対応に係るマニュアルの整備

□相手の気持ちを考えを尊重し、周りの人を思いやる豊かな心の育成（道徳教育）

□いじめ･不登校の未然防止に向けた教育活動の充実

□生徒が安心して学習や生活ができる環境の整備

□人権に配慮した指導･支援
- 年齢や障害特性に配慮
- 個人情報の取り扱いマニュアルの徹底

一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくり

■ＩＣＴ教育推進のための環境整備と職員研修

■ＩＣＴを積極的に活用した学習支援の工夫
- 対面授業とオンライン授業のハイブリット化
- 現場実習・進路指導等のリモート対応の検討

■非常時における「学びの保障（遠隔学習等）」の準備

⇒プロジェクトの発足
「新たな千歳の学び推進プロジェクト（仮）」

□カリキュラムマネジメントを基盤にした教育課程の検証・編成
- 専門教科・作業学習、校外での実習（４形態）における指導内容･方法･内容等のの関連性を深めた教育課程の整備
- 各教科等における系統性･関連性の整理･検討

■授業改善
- 適切な実態把握と教員一人一人のアイデアを活かした、生徒が「わかる」「さらに学びたい」と感じる授業の推進　　（授業改善）
- ＰＤＣＡサイクルによる授業改善の推進

自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進

□キャリア発達の視点での学習活動の展開
- 主体的な学びや自己選択･決定を促す指導の工夫
- 様々な学習の中で生徒一人一人の「～のようになりたい」「～をやってみたい」という気持ちの育成
- 言語教育（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力）の促進

■働くための体力の向上

■生涯を通じたスポーツや文化
- 芸術への取組（生涯教育・余暇指導の充実）

■地域の資源（企業や事業所や施設等を活用した人や社会とつながる授業の充実

□企業･労働・福祉機関等の連携（ネットワークづくり）による適切な進路指導と卒後指導の充実

地域に開かれた教育活動と専門性を活かしたセンター的機能の充実

□地域主催行事･各種大会等への積極的な参加

□専門家や関係機関との連携を密にした支援会議･相談業務の充実

□交流及び合同学習の実施

□学校公開や研修会を通じた特別支援教育に関する情報の積極的な発信

■本校の教育活動を広く伝えるための取組
- ＩＣＴ機器を活用しての動画配信などの推進
- 学校だよりの企画の工夫

■コミュニティースクールの設置に向けた準備

信頼される学校づくりと働き方改革

□服務規律の保持とコンプライアンス意識のさらなる向上

□時間の使い方についての意識改革と勤務時間の適正管理

□業務改善（重点目標達成のために、組織的な対応で課題の改善を図る。）

□教職員の協働性･同僚性の向上

■専門性の向上を目指した校内研修の充実と個人研修の推進

□ＰＴＡ活動の活性化

財政的基盤に基づく学校経営

■限られた財政の中で、教育効果が上がる運用
- 次年度大幅な予算削減となることなどを踏まえた対応

□キャリアアップを目指した業務推進（事務職員）

開校10周年記念事業

■開校１０周年（令和４年）に向けた取組
- プロジェクトチームの提案を受けての各セクションでの取組開始

どのように支援するか・どのように学ぶか・何が必要か

具体的な取組

安全・安心な学校づくりとリスクマネジメントの強化

■生徒が主体的に取り組む実践的な「防災安全教育」「健康教育」の推進
〈実践的な防災訓練・防犯訓練等の実施〉
・消防署と連携し消火設備（消化器・ホース・脱出シューター）を使用した消火訓練・研修を行う。
・警備会社の指導のもとの防犯訓練を実施する。
■危機管理マニュアルの整備
〈感染症対応に係るマニュアルの整備〉
・令和２年度の対応を整理し、「校舎内の消毒の徹底」「非接触検温計を使用した生徒・職員の健康管理」、変異種を含め、新たな感染症流行に備えた対応（感染防止対策、備蓄品等）を検討する。
・「公的機関主催の防災に関するイベント」に参加（応募）する。
□相手の気持ちを考えを尊重し、周りの人を思いやる豊かな心の育成
〈道徳教育〉
・人権にかかわる職員研修および授業を実施する。
□人権に配慮した指導・支援
・年齢や障害特性に配慮する。
・個人情報の取り扱いマニュアルを徹底する。
・18歳成人の法改正に伴い、必要な生徒指導と家庭への情報提供を行う。
□いじめ・不登校の未然防止に向けた教育活動の充実
・本校のいじめ防止基本方針の見直しと周知を行う。
□生徒が安心して学習や生活ができる環境の整備
・安全点検を徹底し事故を未然に防ぐ。

一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくり

■ＩＣＴ教育推進のための環境整備と職員研修
・GIGAスクール構想への対応のため、苦手意識を払拭し、全職員がICT機器の操作に慣れる事を目指し、ICT研修を計画・実践する。
■ＩＣＴを積極的に活用した学習支援の工夫
〈新たな千歳の学び推進プロジェクトの発足〉
・対面授業とオンライン授業のハイブリット化を進める。
・現場実習・進路指導等のリモート対応の検討
アフターコロナも意識し、「事業所見学」「製品のコマーシャルや受注」「地域との交流」をリモートで実施する。
・非常時における「学びの保障（遠隔学習等）」の準備
休校への対応として、全ての教科・科目および作業の「ｙｕｂｅ・ｚｏｏｍ配信可能な動画教材」を作成しストックする。
・ICTマニュアルを作成配布する活用を促し随時更新する。
□カリキュラムマネジメントを基盤にした教育課程の検証・編成
・専門教科・作業学習、校外での実習（４形態）における指導内容・方法・内容等のの関連性を深めた教育課程を整備する。
・各教科等における系統性・関連性整理・検討する。
■授業改善
・適切な実態把握と教員一人一人のアイデアを活かした、生徒が「わかる」「さらに学びたい」と感じる授業の推進（授業改善）
・ＰＤＣＡサイクルによる授業改善の推進する。

自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進

□キャリア発達の視点での学習活動の展開
・主体的な学びや自己選択・決定を促す指導を工夫する。
・様々な学習の中で生徒一人一人の「～のようになりたい」「～をやってみたい」という気持ちを育成する。
・言語教育（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力）の促進を図る。
・個別の教育支援計画の本人の希望～目標の検証を行い
必要に応じて目標の見直しを行う。
■働くための体力の向上
・体力向上のための取組を地域との連携方法の検討する。
■生涯を通じたスポーツや文化
・芸術への取組（生涯教育・余暇指導の充実）
美術科・音楽科、体育科での学習、同好会活動との関連も持ちながら、ＩＣＴの活用、地域との連携を含めて検討する。

■地域の資源（企業や事業所や施設等を活用した人や社会とつながる授業の充実
・地域のニーズや要望を聞き取り、実施可能な取組を関係部所で検討する。まずはスタートを切る。
・感染症拡大の状況を踏まえて、地域の労働・福祉機関、企業等と連携した学習の推進する。
□企業・労働・福祉機関等の連携（ネットワークづくり）による適切な進路指導と卒後指導の充実
・校内研究として全卒業生にアンケートをとり、卒後に必要な在校中の取組について再検討し、進路支援と指導内容の充実を図る。

地域に開かれた教育活動と専門性を活かしたセンター的機能の充実

□地域主催行事・各種大会等への積極的な参加
・千歳市「笑顔に開く花のコンサート」への参加をはじめ、参加可能な行事を探る。
□専門家や関係機関との連携を密にした支援会議・相談業務の充実
・支援会議などに積極的に参加し、必要に応じて関係機関との情報共有を行う。
□地域の学校との交流及び合同学習の実施
□学校公開や研修会を通じた特別支援教育に関する情報の積極的な発信
・本校のアピールポイントを、ホームページ等で発信する。
■本校の教育活動を広く伝えるための取組
・ＩＣＴ機器を活用しての動画配信などの推進
動画による広報的内容の配信の企画検討をする。
・学校だよりの企画の工夫
興味を持って読まれる紙面にするためのデザインや構成の一新「学校便りweb版」を設定し、レイアウトや更新方法を工夫する。
■コミュニティースクールの設置に向けた準備
・評議員会で道内コミュニティースクールの現状を共有する。

信頼される学校づくりと働き方改革

□時間の使い方についての意識改革と勤務時間の適正管理
□服務規律の保持とコンプライアンス意識のさらなる向上
・朝会・終会を原則週一回の開催とし、連絡事項は掲示板等を用いて共有する。
・朝会連絡事項の内容と合わせ、コンプライアンス意識向上に関する内容を掲示し周知する。
□業務改善（重点目標達成のために組織的な対応で課題の改善を図る。）
・学年を越えた業務のシェアを推奨し、実施する。
□教職員の協働性・同僚性の向上
・担当者の複数配置を推奨し、業務分担の適正化を図る。
■専門性の向上を目指した校内研修の充実と個人研修の推進
・職員各自が自己の専門性向上（キャリアアップ）を目指した研修課題を持つ（学校職員人事評価にて目標の設定）
□ＰＴＡ活動の活性化
・遠隔リモートでの役員会の開催を実施する。研修についてもリモート開催を検討する。

財政的基盤に基づく学校経営

■限られた財政の中で、教育効果が上がる運用
・次年度大幅な予算削減となること等を踏まえた対応をする。
予算がかかる行事、学習活動についてローコスト化するように再検討する。
・ペーパーレス大作戦(仮）を実施する。
□キャリアアップを目指した業務推進（事務職員）

開校10周年記念事業

■開校１０周年（令和４年）に向けた取組
〈10周年プロジェクトを本格稼働させる〉
・プロジェクトチームの提案を受けての各セクションでの取組開始
本校オリジナルキャラクター「くろはちゃん」をイメージキャラクターとして、本校文書や製品等に入れ込む
・学科で協力して記念品作成を行う。

その他